



【発行】林野庁 東北森林管理局

住所：青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野 70-82

津軽白神森林生態系保全センター

TEL：0173(72)2931 FAX：0173(72)2932

中・大型哺乳類調査結果（青森県側）について

令和2年度における白神山地周辺地域の中・大型哺乳類調査（青森県側）については、4月上旬～11月末までセンサーカメラ32台により実施しました。

毎月撮影データを回収し、撮影された哺乳類は14種2,220頭であり、最も個体数が多かったのはタヌキで403頭、次いでカモシカ350頭、ハクビシン218頭、キツネ210頭で、近年分布拡大が懸念されているニホンジカは6頭で、昨年度の8頭より減少した結果となりました。（全て♂）

また、ツキノワグマは99頭で、令和元年度237頭であったことから、減少しています。しかし、平成30年度は88頭であり、令和元年度に多く見られた原因としては、ブナの実が多く実り、栄養状態が良かったことなどが考えられます。

移入種のハクビシンについては、平成30年度159頭、令和元年度167頭と推移していましたが、前述のとおり令和2年度200頭以上と増加しており、繁殖力が高いことから、このまま増加していくと従来の生態系に影響を及ぼす懸念があります。

この調査は平成26年度から実施しており、今後も哺乳類の動向を把握するため、継続していきます。（小倉）



ニホンジカ♂（10月15日 深浦町）



ツキノワグマ（9月9日 鰺ヶ沢町）



ハクビシン（9月23日 西目屋村）

ニホンジカ越冬地調査について

今年度当センターではニホンジカの越冬地調査の目的で、センサーカメラでの自動撮影のほかに、カメラが設置されていない地域を中心にニホンジカの痕跡調査を行いました。ニホンジカの痕跡には主に、食痕、フンなどがあります。これらについて少し解説したいと思います。

まず食痕についてですが、ニホンジカはササやヒメアオキ(雪に埋もれにくい性質がある)という植物が好むようで、これらが自生している場所を中心に調査を行います。先日現場に行ったとき、ササの葉が食べられていたのを発見したので、採取し研究機関に分析してもらった結果、ニホンジカの陽性反応が出ました。

次にフンですが、これは見つけるのが中々難しいです。痕跡調査を12月から開始しましたが、初めて発見したのは3月中旬でした。しかしその時見つけたフンはタメ糞と言って、一か所に積もる様なかたちで落ちていて、このようなフンはカモシカの可能性が高いのです。これから研究機関に送るので現時点ではニホンジカのものは分からないですが、期待はできません。

また、ある調査地点ではニホンジカの寝床と思われる痕跡も発見しました。そこは落ち葉が積もっていたのですが、ニホンジカくらいのサイズの動物が寝たような跡が付いていて、近づいてみると獣の匂いがしました(動物園の様な匂いでした)。さらに寝床を細かく見てみると獣毛がたくさん落ちていたので、これを採取して研究機関に送ることにしました。



ササの葉が食べられた痕



カモシカのものと思われる、タメ糞

ニホンジカの越冬地調査をするにあたって、その痕跡が見つかる何となく達成感があり嬉しいですが、実際は森林の生態系に悪影響を及ぼす哺乳類ですので、それを考えると時々複雑な気持ちになります。今後、白神山地周辺地域でニホンジカが増えて、生態系に影響が出る前に対策を講じられるよう、これからも越冬地調査やセンサーカメラの設置など、ニホンジカ監視に努めていきたいです。(木村)